

入場無料!

臨床医から見たチェルノブイリと福島

日時… 7月15日(火) 18:30~20:30

場所… かながわ県民センター 301号室

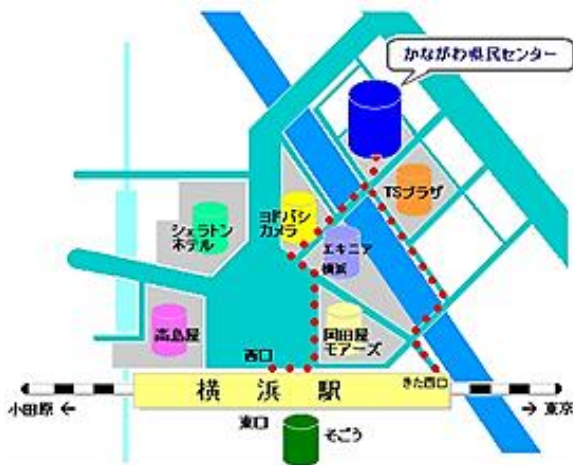
講師… 牛山元美さん（さがみ生協病院内科部長）

福島県が実施している県民健康管理調査の最新報告では、甲状腺がん二次検査の結果、福島原発事故発生時18歳未満の小児50人が悪性、39人が悪性の疑いという診断結果が示されています。

この人数は、診断人数、年齢構成からみて、これまでの小児甲状腺がん発生率の常識をはるかに上回る多発である事を多くの方が指摘していますが、政府と福島県は最新の超音波検査を実施したことによるスクリーニング効果だとして、事故による放射線被ばくの影響を否定しています。

また、放射線による影響は未解明な部分が多く、がん以外の様々な変化を把握することも重要ですが、政府や福島県は放射線による健康影響を指摘するテレビ番組や漫画に対して、因果関係はないと否定するだけ。全国的な調査をして結果を明らかにしようとはしません。

臨床医として、福島原発事故後に放射能の影響を心配しているお母さんたちの疑問を受け止め、応えていくために放射線について勉強し、ベラルーシまで甲状腺疾患の研修を受けに行った行動派の先生のお話をお聞きします。



牛山 元美（うしやま もとみ）さん

佐賀県鳥栖市で生まれた後は大阪で育ち、中学2年生より埼玉県熊谷市に転居。現高知大学医学部卒業、昭和大学医学部に入局、昭和大学病院、総合高津中央病院、(財)日本健康開発財団アジュール竹芝総合健診センターを経て、1997(平成9)年より神奈川北中央医療生活協同組合 さがみ生協病院 に勤務し、現在内科部長。

2011年3月後、こどもたちを被ばくによる健康障害から守るために、学校環境の改善を求めて、母親仲間とともに市に陳情を行い、学習会講師を務める。

2012年4月から福島や神奈川で健康相談会に参加、11月から福島県郡山市桑野協立病院に月一回当直開始。

2013年2月から、関東在住で子どもの被ばくを心配する方に「被ばく関連健診」(自費)を開始。

2013年3月、ベラルーシ医学アカデミーでチェルノブイリ事故後の甲状腺疾患についての研修を受けた。

問合せ… 県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会

045-325-8761